

鹿児島市

中央地域①版

保存版 令和3年6月発行

防災ガイドマップ

～災害時に、あなたのご自宅は「安全」ですか？～



近年、雨の降り方が局地化、激甚化しており、台風や大雨等による被害が相次いで発生するなど、災害はいつ、どこで起こるかわかりません。

「鹿児島市防災ガイドマップ」では、新たに指定された土砂災害（特別）警戒区域や想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、避難情報のポイントなどを掲載しています。

「防災診断」で、自分や大切な人の“いのち”を守るための3つのチェックを行い、災害に備えましょう。

【鹿児島市ホームページもご活用ください】

- この「防災ガイドマップ」の見方を分かりやすく解説した動画を公開しています。
- かごしまiマップ（防災マップ）で、市全域の土砂災害（特別）警戒区域や洪水浸水想定区域、指定緊急避難場所等の確認ができます。
- その他のハザードマップ（津波・液状化・桜島火山）も確認できます。

鹿児島市 防災ガイドマップ

検索



急傾斜地が多い日本は、台風や大雨等で、がけ崩れなどによる土砂災害が発生しやすい環境にあり、いざ発生すると一瞬にして多くの人命を奪ってしまいます。特に、鹿児島市の多くは、水を含むと崩れやすいシラス（火山噴出物）でおおわれており、土砂災害が起きやすい地域です。



◇土砂災害の主な原因

土砂災害は、大きく「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」「土石流」「地すべり」の3つに分類することができます。

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）

急傾斜地（傾斜の角度30度以上で高さが5m以上のもの）において、大雨や長雨などにより雨水が地面にしみこみ、緩んだ「がけ」が突然崩れ落ちるものです。



土石流

山や谷（渓流）の土、石、木などが、大雨や長雨などによって一気に下流へと押し流されるものをいいます。

地すべり

大雨や長雨などにより雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたり、ゆっくりと斜面下方に動き出すものをいいます。

土砂災害（特別）警戒区域とは？

土砂災害（特別）警戒区域とは、土砂災害のおそれがある区域です。鹿児島県により、新たに、**土砂災害特別警戒区域（約3,100箇所）**と**土砂災害警戒区域（約3,300箇所）**が指定されました（令和3年4月指定完了）。防災マップ（裏面）で自宅の安全性を確認しましょう。

〔土砂災害警戒区域（イエローゾーン）〕

土砂災害のおそれがある区域

〔土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）〕

イエローゾーンの中でも特に、建物が破壊され、住民に大きな被害が生じるおそれがある区域



〔急傾斜地における土砂災害（特別）警戒区域のイメージ〕



これまでのイエローゾーンも見直されているので、改めて確認しましょう。



土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊
	土石流
	地すべり
土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊
	土石流

雨が多い日本では、毎年、大雨による河川氾濫等が発生しており、個人の住宅や資産などに損害を与え、時には人命を奪う水害が起こっています。鹿児島市では、平成5年8・6豪雨災害で、甲突川、稲荷川、新川が氾濫して市内の広い範囲が浸水しました。



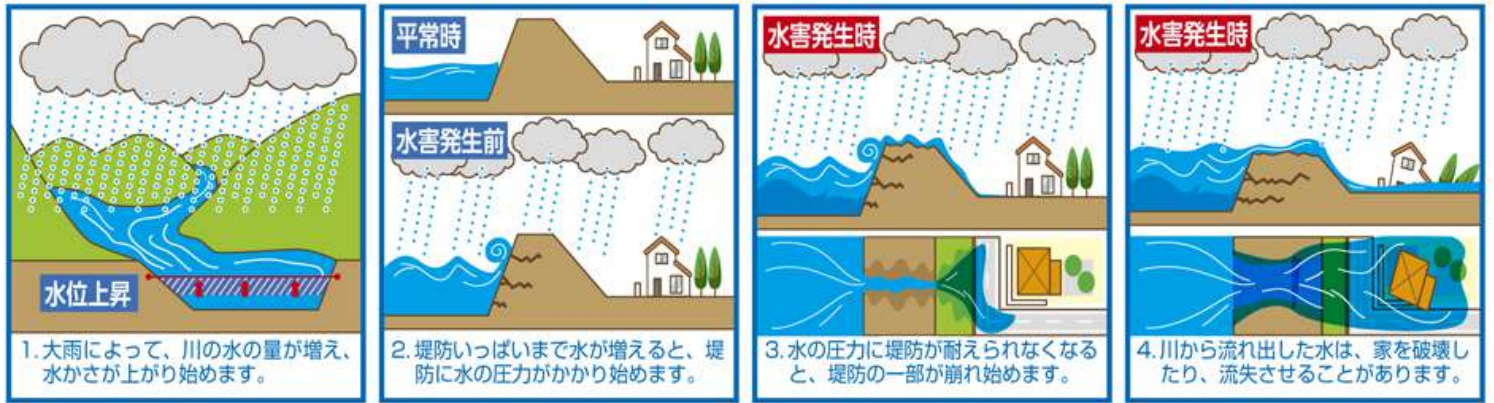
草牟田町(甲突川) 8・6豪雨災害



清水町(稲荷川) 8・6豪雨災害

◇洪水発生仕組み

洪水とは、大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越える(越水)などして起こります。



洪水浸水想定区域とは？

洪水浸水想定区域とは、河川の氾濫により、浸水が想定される区域です。防災マップ(裏面)では、**想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域**と**家屋倒壊等氾濫想定区域**を掲載しております。浸水した場合に想定される浸水の深さ(浸水深)など、自宅の安全性を確認しましょう。



※本市では、稲荷川・甲突川・新川・永田川の4河川が水位周知河川として指定されています。

私の自宅の浸水深は 3.0m~5.0m 未満で、2階までくるから、早めに避難をしないとイケないわね。



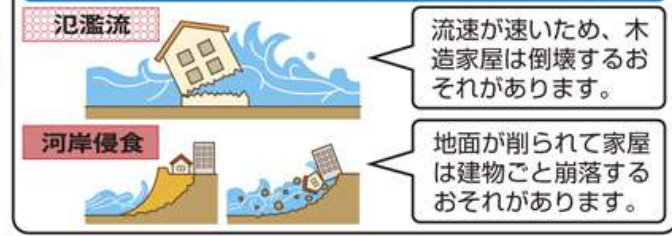
想定最大規模の降雨ってなに？



想定最大規模の降雨は、現時点で想定し得る最大規模の降雨を、過去の気象観測データ等から導き出した、概ね1,000年超に1回の大雨のことだよ。

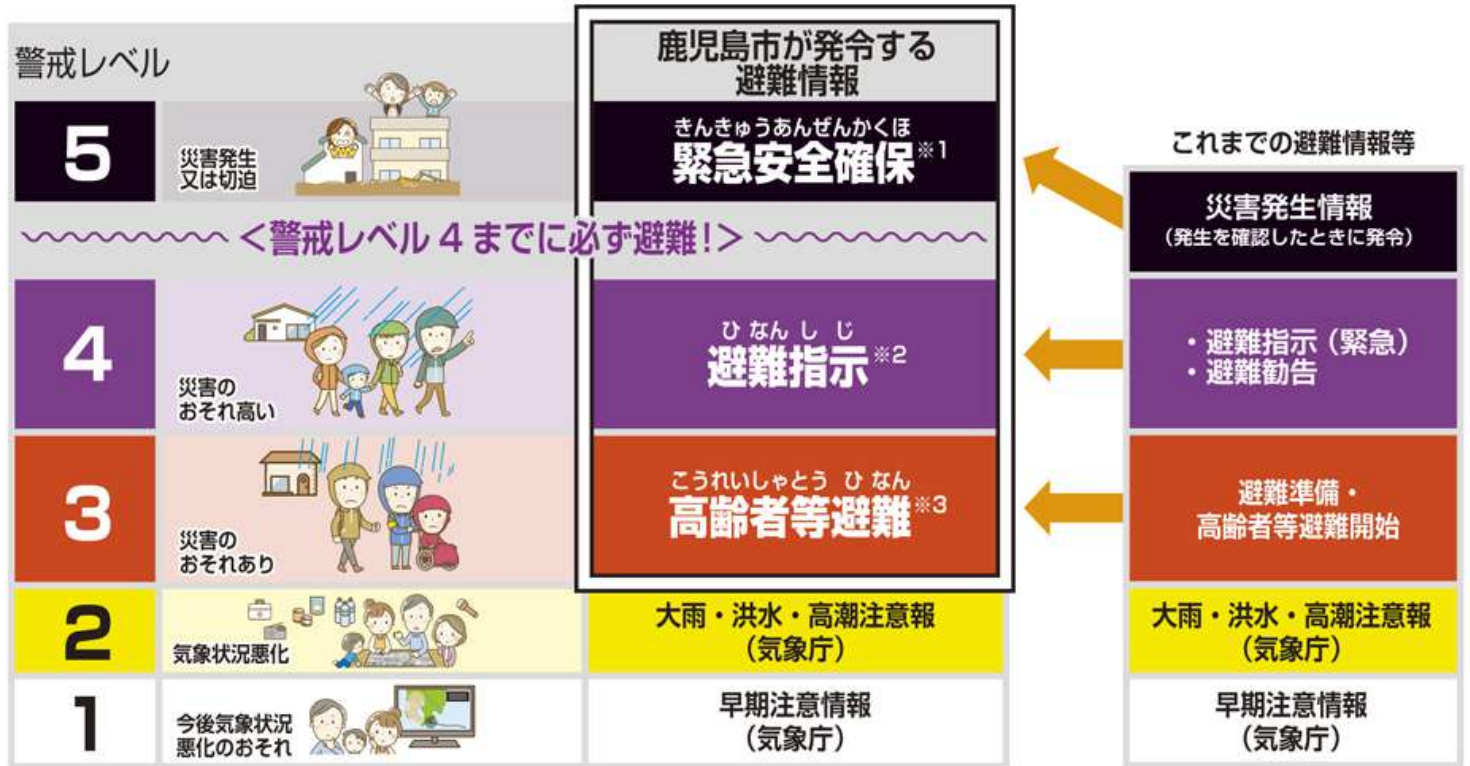


家屋倒壊等氾濫想定区域
家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される区域



警戒レベル④避難指示で必ず避難。避難勧告は廃止です。

令和3年度から、災害が発生又は発生するおそれがある場合、鹿児島市は次の避難情報を発令し、避難のタイミングをお伝えします。災害時に備えて、各段階でとるべき行動をチェックしましょう。



※1 鹿児島市が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。
警戒レベル5 緊急安全確保の発令を待ってはいけません!

避難勧告は廃止されます。これからは、**警戒レベル4 避難指示**で危険な場所から全員避難しましょう。

避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は、**警戒レベル3 高齢者等避難**で危険な場所から避難しましょう。

◇鹿児島市からの避難情報の発令について

避難情報を、各行政区域の土砂災害(特別)警戒区域、河川流域の洪水浸水想定区域など危険な場所にいる市民等を対象に発令します。

- [発令の地域等] 土砂:行政区域(9地域:中央・谷山・伊敷・吉野・吉田・桜島・喜入・松元・郡山)
 洪水:河川流域(稻荷川・甲突川・新川・永田川)



鹿児島市から発令される避難情報をよく確認し、適切な避難行動をとりましょう。

※土砂災害(特別)警戒区域内、洪水浸水想定区域内に該当する町丁名(一部含む)は、市HP、市LINE公式アカウントなどで確認できます。
 (例) <中央地域> ○○町、△△町、□□1丁目~3丁目



自宅の危険度を確認し、「避難行動判定フロー」で自宅避難か自宅外避難かを判断しましょう。

平時に
確認

避難行動判定フロー(流れ)

あなたがとるべき避難行動は?(チェックしていきましょう)

- ①「防災マップ(裏面)」で自宅がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。
- ②自宅が次の項目にあてはまる場合は、チェックを入れましょう。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

洪水浸水想定区域 想定される浸水の深さ(浸水深)は?

0.5m未満

0.5m~3.0m未満

3.0m~5.0m未満

5.0m以上

家屋倒壊等氾濫想定区域

河岸侵食

氾濫流

自宅がある場所に色が塗られていますか?
(上の項目にチェックがありますか?)

いいえ

原則として、**自宅避難**をしましょう。
※色が塗られていなくても、危険な箇所もあるので事前に周辺をよく確認しましょう。周り比べて低い土地やがけの近くなどにお住まいの方は、鹿児島市から発令される避難情報(避難指示等)をもとに必要に応じて避難してください。



はい

災害の危険があるので、
原則として、**自宅外避難**が必要です。

例外

※ただし、浸水の危険があっても、次の3つが確認できれば**自宅避難**も可能です。
①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域(家屋倒壊等氾濫想定区域)の外側である。
②想定される浸水深よりも高いところにいる。
③浸水しても水がひくまで耐えられる、水・食料などの備えが十分にある。



ご自身または一緒に避難する方は
避難に時間がかかりますか?

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて
身を寄せられる親戚や知人はいますか?

はい

[警戒レベル3]
高齢者等避難が発令されたら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。

[警戒レベル3]
高齢者等避難が発令されたら、鹿児島市が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう。

安全な場所に住んでいて
身を寄せられる親戚や知人はいますか?

はい

[警戒レベル4]
避難指示が発令されたら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。

[警戒レベル4]
避難指示が発令されたら、鹿児島市が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう。



天気の良い、時間の余裕がある時に、災害時の備えをしましょう。
(備えができたならチェックしましょう)

自宅を防災マップ(裏面)で確認



※かごしまiマップでも確認できます。

防災情報の入手方法の確認



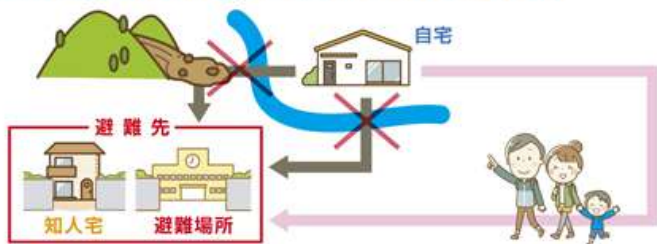
非常持出品・備蓄品の確認



避難先(指定緊急避難場所や親戚・知人宅等(日頃から相談を))の確認



避難経路の確認(実際に歩いてみよう)



家族で災害対応のルール(避難時の連絡先や集合場所など)の確認



※避難行動要支援者の支援者や自主防災組織、近所の方との連絡体制も確認しましょう。

家庭内で備えよう

避難するときに自宅から緊急的に持ち出す「非常持出品(避難場所で1~2泊できるくらいの水、食料、生活用品(マスク・体温計・毛布など))」や、ライフラインの停滞等を想定して各家庭最低3日分の「備蓄品」を備えましょう。

非常持出品

- 懐中電灯
- 現金(小銭含む)
- 充電器
- 健康保険証
- 非常食(缶詰等)
- 救急用品
- 飲料水
- 常備薬
- 携帯ラジオ
- 雨具
- 携帯電話
- 毛布(タオルケット)

～感染症対策にも有効です!!～

- マスク
- 体温計
- 手指消毒用アルコール など

備蓄品

- 飲料水(1人1日3リットル)
- 食料品
- 卓上カセットコンロ
- 衣類(下着・上着・毛布) など



○指定緊急避難場所(兼指定避難所)

鹿児島市では、小学校など市内224箇所の施設を指定避難所を兼ねた指定緊急避難場所として指定しています。※避難所では、「3密」回避の徹底など、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいます。

- 指定緊急避難場所とは、台風や大雨等の災害時に危険から逃れるための安全な場所(災害種別ごと)です。
- 指定避難所とは、災害が落ち着いた後に、自宅が被災し、帰宅できない場合に、一定期間避難生活を送るための場所です。



避難情報が発令されたら、危険を感じる前に即避難をしましょう。
(避難の心得を確認したらチェックしましょう)

□ 正確な情報を収集しよう



□ 避難時は動きやすい服装で2人以上で行動しよう



□ 早めに避難しよう



□ 側溝やマンホールなど避難経路の状況等に注意しながら避難しよう



□ 災害発生又は切迫しているときの自宅外避難は危険なため、車での移動も控えましょう



□ いざとなったら少しでもがけから離れ、2階以上へ移動するなど安全を確保しよう



○ 主な防災情報の入手方法

テレビ・ラジオ



テレビのリモコンの「d」ボタンを押すと「データ放送」の画面になり、気象情報をはじめ河川の水位などいろいろな情報を取得できます。(NHK鹿児島放送局の「データ放送」では、気象情報等のほか、発令されている避難情報やその対象地域等(町丁名含む)、避難所の開設状況も確認できます)

事前登録

鹿児島市LINE公式アカウント



事前に友だち登録したLINEのトーク画面に、避難指示等や避難所の開設などの緊急情報を通知します。(登録無料)
また、気象・噴火情報や防災マップなど防災の分野にワンタッチでアクセスできます。



鹿児島市ホームページ



避難指示等や避難所の開設、防災行政無線の放送内容などの緊急情報をお知らせします。
◇ <https://www.city.kagoshima.lg.jp/>



事前登録

安心ネットワーク119



事前登録したメールアドレスに、災害情報、避難指示等や避難所の開設、防災行政無線の放送内容などをメールで配信します。(登録無料)
◇ ansin119@kagoshima-fd.jp



気象庁ホームページ キキクル(大雨・洪水警報の危険度分布)

「キキクル(大雨・洪水警報の危険度分布)」で、5段階で色分けされた災害の危険度を地図上でリアルタイムに確認できます。

◇ <https://www.jma.go.jp/jma/>



その他の自然災害にも備えよう

地震に備える

鹿児島市 地震・津波対策に関する情報

検索

地震の揺れを感じたら、どんな場所でも「あわてず、まず身を守る」ことが大切です。

自宅で地震にあったら

- ① 3つの安全確保行動「まず低く」「頭を守り」「動かない」を実行する
- ② 無理に火を消そうとしない

◇家の中の安全対策

- ① 家具は倒れにくいように置く
- ② 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる
- ③ 寝室、子どもや高齢者のいる部屋には家具を置かない
- ④ 安全に避難できるように、出入口や通路には物を置かない



外出先で地震にあったら

- ① 屋外ではブロック塀の倒壊、看板や割れたガラスの落下に注意
- ② エレベーターでは最寄りの階に停止させ、すぐにおりる
- ③ 人が大勢いる施設では、係員の指示に従い、あわてて出口に走り出さない



津波に備える

鹿児島市 津波避難ビル

検索

津波警報など、津波に関する情報が発表されたら、近くの高台や津波避難ビルに向かうなど、津波の危険から身を守るための迅速な行動が必要です。

津波から避難するポイント

- ① 地震の揺れの程度で津波の有無を自ら判断しない
- ② 「より遠く」ではなく、「より高い」ところに
- ③ 「ここには津波が来ない」という俗説を信じない
- ④ 原則、徒歩で避難
- ⑤ 引き潮がなくても津波は襲う



津波警報・注意報の種類

種類	発表基準	発表される津波の高さ	
		数値での発表(津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の発表
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合	10m超(10m<予想高さ)	巨大
		10m(5m<予想高さ≤10m)	
		5m(3m<予想高さ≤5m)	
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合	3m(1m<予想高さ≤3m)	高い
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合	1m(0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)

※鹿児島県の予測調査では、鹿児島湾直下で震度7の地震(想定最大の)が発生すると、最大3.4mの津波が13分後に到達する想定になっています。

桜島の火山噴火に備える

鹿児島市 桜島火山対策に関する情報

検索

火山噴火は、降灰だけでなく噴石の飛散や火砕流など、さまざまな現象が起こります。また、大規模噴火時には、桜島島内だけでなく、風向き(東の風)によっては市街地側にも大量の軽石や火山灰が降り積もることも想定されるため、日頃から備えておく必要があります。

桜島大規模噴火対策(大量軽石火山灰対策)

大正3年(1914年)の大規模噴火から100年以上が経過し、桜島のマグマの供給源である始良カルデラ下のマグマの蓄積は、2020年代には大正噴火前のレベルまでほぼ戻ると言われています。今後、大正噴火級の大規模噴火が発生し、「東の風」の場合、市街地側でも大量の軽石や火山灰が最大1m積もることなどが想定されることから、事前に避難することが重要です。

〈1914年大正噴火の様子〉

鹿児島県立博物館所蔵



見たこともないような高さの噴煙



噴火活動中に起きた大地震による被害



大量の軽石や火山灰に埋もれた家屋

